



熊本県消防操法大会が8月22日、荒尾市運動公園多目的広場特設会場で開催された。大津町からは小型ポンプの部で第3分団第2班が、ポンプ車の部で、本部が出場した。菊池郡の代表として出場した彼らは夏の暑さにも負けず、操法競技を披露した。

結果、小型ポンプの部で、第三位。ポンプ車の部で、準優勝と素晴らしい成績を残した。この結果は大津町消防団としては初の快挙だ。

初の準優勝&第三位 熊本県消防操法大会

前回大会のポンプ車の部で四位入賞し、今年は準優勝。小型ポンプの部でも三位入賞となりました。大津町消防団員が誇りを持つ結果です。消防署の皆さんや団員など練習に協力してくれた全ての人に感謝します。これからも選手やその他の団員が気を引き締めて消防活動に臨んで欲しいと思います。



大津町消防団 団長
にしだ けんいち
西田 健一さん



消防が間に合わない6分間に何をするか



菊池広域連合消防本部
南消防署長
いけいりきみ お
家入公生さん

大規模災害に耐えるためには、3日間の備蓄があると良いと言われています。一番大事なのは「水」。人間は1日2~5ℓの水を必要としますから。わたしの家では、やかんやお風呂に常に水を入れておくようにしています。そして、避難場所を把握しておき、移動経路も二通り以上知っておくことです。

菊池広域連合消防本部 地域でつながってれば、お互い助け合うこと5強の地震が起きる可能性が6%あると言われてる。これは決して低くなく、高い確率だと言われている。備えをするための理由としては十分な確率だ。阪神・淡路大震災は最大震度7を記録しているが、救命活動は、地域での交流が盛んだった地域とそうでなかった地域で救命率に大きく差がでた。「一番大事なことは近所同士で仲良くすることです」 家人署長は地域力が防災だと話す。

地域でつながってれば、お互い助け合うことができる。それは「地域福祉」の精神だ。

心臓や呼吸が止まった人の治療は、5分以内の救命処置が非常に効果がある。しかし、救命救命士や医師が到着するまでの時間は、全国の平均でも6分以上かかる。その人の命を助けるためには、バイスタンダー（そばにいる人）が心肺蘇生法（CPR）を行わなければならない。

助かる命を助けるために、心肺蘇生法を学ぶ。



▲手の付け根の位置で、体重をかけて胸が4~5cm沈むほど強く圧迫する。1分間に100回の速いテンポで30回連続して圧迫する。
◀圧迫部位はこの部分。胸の真ん中だ。

反応を確認
気道を確保
人工呼吸
胸骨圧迫

バイスタンダーが心肺蘇生法のカギを握る



大津町役場 総務部長
とくなが やすのり
徳永 保則

地域がつながるように住民と行政もつながりましょう

防災は、町で安心して暮らすためにも大切なことです。町には消防団や自主防災組織などが確実に機能しています。その努力と意識にとても感謝しています。

今後も消防団活動の充実や自主防災組織の力率を上げるために、組織の支援も行っていきたいと思っています。行政ができることは行政で、地域でできることは地域で、共助の精神で防災活動を進めることができたら良いと思います。

また大規模災害時に一人では避難が難しい高齢者や障害のある人などの避難誘導をお手伝いするために「災害時要援護者」の登録を健康福祉課で行っています。万が一の備えになりますので、ぜひ活用ください。

そして防災訓練をやりましょう

10月24日は、大津町総合防災訓練を行います。私たち自身が実際に訓練を行うという気持ちで取り組みましょう。この町で生きる大切な命を守るためには、日々の心がけがとても大切です。防災を忘れないように行政も努力し続けたいと思います。



助けることができる命を助けることができる...これほど辛いことはあまりないだろう。だから知っておかなくてはならない。備えておかなければならない。もし命を助けることができなかつたとしても全力で尽くすことができたなら、皆、あなたに感謝するだろう。そしてあなたも悔いは残らないはずだ。

災害はいつ起こるか分からない。来年でもないし、明日でもない。今、目の前に災害は迫っていると考えてほしい。郷土を守るため、愛する人を守るために防災は必要なのだ。

防災について調べれば調べるほど、人とのつながりが顔を出す。正に地域力は防災力なのだ。そしてぜひ家族で防災会議を行って欲しい。愛する家族を一番先に守ることができるのは、他のだれでもなく、あなたなのだから。

防災の日 特別企画 今そこにある危機 終

【参考資料】大津町地域防災計画、新時代に対応した消防団運営、応急手当講習テキスト「改訂3版」、AEDを使った救命処置

【写真提供】横浜市中央図書館、豊岡吉人さん